



1 安楽川が氾濫し野登橋が損壊(辺法寺町)
 2 椋川が氾濫し家屋が浸水(川合町)
 3 竜川が氾濫し道路が冠水(東御幸町)

9月1日は 防災の日

49災から50年

改めて防災を考える

毎年9月1日は「防災の日」です。台風や地震、津波などの災害に対して一人ひとりが認識を深め、これに対処する心構えを準備するための日です。関東大震災(大正12年9月1日)や伊勢湾台風(昭和34年9月26日)などがきっかけとなり制定されました。

昭和49年7月24日～25日に亀山市を襲った集中豪雨による災害(通称「49災」)から今年で50年が経ちました。この集中豪雨では、19時間で約3カ月分の雨(連続降雨量381mm、時間最大雨量101mm)が降り、野登地区、川崎地区、井田川地区などで河川の決壊氾濫が発生し、家屋の浸水や半壊、道路の寸断や断水などの大きな被害を受け、自衛隊による救助活動が行われました。

今回、当時を経験された、若林一宏さん(両尾町原尾)、笠井博さん(辺法寺町)、水野成樹さん(両尾町平尾)にお話を伺うことができました。この機会に過去の災害の歴史を知り、災害から自分の命を自分で守るためにできることを改めて考えてみましょう。



若林 一宏さん
(当時30歳)

— 当時の状況について

若林さん 当時のことは今でも鮮明に覚えている。それまでの人生で経験したことのないような激しい雨がずっと降り続いていた。向こう側が全く見えず、とても恐ろしかった。25日の朝方には安楽川が氾濫。上流から木や土砂などいろんなものが流れてきて、橋が崩壊していった。あつという間の出来事だった。



笠井 博さん
(当時29歳)

笠井さん 川が氾濫した後は、一気に床上1m以上まで水が家の中に入ってきた。床は水浸しになり、家具などの一部は流されてしまった。家族は家の2階に避難し、水が引くのを待った。外にいたらあつという間に流されていたと思う。川が氾濫したのは早朝で、少しでも時間がずれていたら通学や出勤時間などと重なり、さらに大きな被害が出ていたと思う。人的被害がなく、みんな無事で本当によかった。



水野 成樹さん
(当時25歳)

水野さん 当時は避難所や避難情報など、大きな災害が起きたときの対策をあまり認識していなかった。自治会から応援要請があり出動したが、野登小学校の体育館も床上浸水していて、避難所にするにはできなかった。出動時に通った道路も数時間後には崩れ、濁流で軽トラックが流されないようにロープでつないだ。橋が崩壊したあとは孤立してしまいどこにも行けず、学校の運動場で自衛隊から飲料水が支給された。



— 49災を経験して

若林さん 野登地区まちづくり協議会の集会室に当時の被災写真を貼って、この地域は過去に集中豪雨による大きな被害を受けたということは今でも忘れないようにしている。経験していない人にも当時の様子を伝え、今後の防災に対する意識を持ってもらいたい。

水野さん 毎年1回は地域で防災研修会や防災訓練を行っている。風水害や地震が起きた場合の危険箇所のチェックや防災ハザードマップの確認などを行い、いざというときに慌てることのないよう、地域で共通の認識を持つように図っている。今後も継続してできる限りの対策を行っていきたい。

笠井さん 49災を経験し、防災に対する意識が変わった。数年のうちに南海トラフ地震が起きると言われているので、非常用持ち出し袋のチェック、避難経路や避難場所の確認など、災害発生時に落ちついて適切に行動できるように危機感を持って、まずできることから始めていきたい。

本市では、現在、災害時における情報伝達の重層化を図るため、令和7年度末の完成を目指して、防災情報伝達システムの整備に取り組んでいます。想定を超える災害は、いつ起きてもおかしくありません。大規模な被害が発生する可能性を認識し、慌てず適切な行動ができるよう、一人ひとりが日ごろから災害に備えた対策を行うことが大切です。

亀山市の防災対策

市では49災以降、国・県と連携しながら亀川・椋川などの河川整備による内水被害対策や鈴鹿川等の護岸工事や河床掘削による流域治水対策など、次のようなインフラの整備強化に取り組んできました。その後、49災を超える500mm以上の連続雨量を記録したこともあります。これまでのところ大きな被害にはつながっていません。

■内水被害や氾濫を防ぐための対策(一例)

【排水路整備】

近年多発するゲリラ豪雨や台風等による浸水被害の軽減を図るため、底張りコンクリートを施工し、水路の流下能力向上に努めています。



底張りコンクリート施工前



底張りコンクリート施工後

【河川維持修繕】

水位警報機点検



市街地における内水氾濫を防止するため、準用河川亀川において除草、浚渫などの河川清掃を実施しました。また、3カ所ある水位警報機の点検を毎年実施しています。



河川清掃実施前



河川清掃実施後

【東御幸排水ひ管設置】

平成5年3月に、東御幸排水ひ管を設置しました。ひ管とは、堤防の中にコンクリートの水路を通し、逆流防止用の扉が付いた施設のことです。平時や川の水位が低いときは扉を開けておき、生活排水や雨水を川に流していますが、洪水により川の水位が高くなったときには扉を閉め、逆流した水が住宅地へ氾濫浸水することを防いでいます。



東御幸排水ひ管



鈴鹿川の出水期点検として、排水ひ管および橋梁の点検を毎月実施しています。



■「亀山市総合防災マップ」を作成しています

「亀山市総合防災マップ」は、「わたしの防災マップ(冊子)」、「地震ハザードマップ」、「風水害ハザードマップ」の3種で構成されており、各家庭のオリジナル冊子を作ることができます。より安全な避難行動を取るために、家族みんなで活用しましょう。

わたしの防災マップ(A4版)の中に地震ハザードマップと風水害ハザードマップ(ともにA1版)が折り込んであります。



自分で備える

■非常備蓄品や非常持ち出し袋を準備しておこう

災害時にはライフラインが断たれ、支援体制が整うまで時間がかかることも少なくありません。非常食や水などの非常備蓄品を用意しておきましょう。また、すぐ持ち出せるように非常持ち出し袋を準備し、災害に備えましょう。

非常備蓄品・非常持ち出し品のチェックなど、詳しくは「わたしの防災マップ」P17・18を参照してください。



◎非常持ち出し袋の内容(例)

食料品など	食料、水、缶詰、レトルト食品、チョコレート、カップラーメンなど
安全対策	ヘルメット、救急セット、常備薬、お薬手帳、眼鏡など
貴重品	現金(小銭)、印鑑、預金通帳、健康保険証のコピー、免許証のコピーなど
衣類など	衣類、タオル、毛布、寝袋、下着、ハンカチ、靴下など
日用品	軍手、ティッシュ、電池、歯磨きセット、懐中電灯、ラジオ、生理用品など



■災害情報の入手先を確認しておこう

避難場所や避難経路を確認する以外にも、災害発生時に混乱しないよう、普段から情報の収集方法を確認しておくことが大切です。気象庁の防災気象情報、被害状況、交通手段やライフラインの復旧状況、支援の状況など、デマや誤報に注意し、正しい情報を集めることが、避難時の安全の確保や安心できる避難生活につながります。

詳しくは、市ホームページの災害情報リンク集や市公式LINEの基本メニュー内「防災・消防」をご活用ください。

亀山市 災害情報リンク集

検索

